

# 平成31年度事業計画及び 収支予算の概要

## 血液事業特別会計



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 1. 平成30年度 主な取り組みと今後の課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
献血者の安定的確保	将来に向けた若年層の献血協力基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象年齢にあわせた普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献血推進・予約システムの活用</li> <li>より安全で安心な献血の検討</li> </ul>
血液製剤の安全性向上	輸血による副作用の低減・軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>新興・再興ウイルスへの対策</li> <li>新規製剤(洗浄血小板)の供給開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>細菌感染防止対策の更なる検討</li> <li>HEVなど新たな検査項目追加の検討</li> </ul>
事業改善の推進	必要血液量の効率的かつ安定的な確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>400mL献血率等の事業目標値を目指した採血効率の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原料血漿の各種確保対策の推進</li> <li>先進技術の活用による定型業務の省力化の促進</li> </ul>
健全な財政の確立	血液需要の変動(収益の増減)に対応できる財政基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種費用の削減</li> <li>新たな施設整備の延期・凍結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続に必要な施設等の整備</li> </ul>

## 2. 平成31年度事業計画 <血液事業>

### 事業環境

- ・血漿分画製剤の需要増加に伴う必要血液量の増加
- ・輸血の安全性向上へのさらなる期待

### 基本的な方向性

- ・必要血液量の安定的かつ効率的な確保に取り組む。
- ・血液製剤の安全性向上に取り組む。
- ・先進技術の活用等により、事業効率の改善に取り組む。

### 主な施策

#### (1) 献血者の安定的確保

- ・献血推進・予約システムの活用等による必要献血者数(487万人)の安定的確保

#### (2) 血液製剤の安全性向上

- ・E型肝炎ウイルスの全数検査に向けた準備及び更なる細菌感染防止対策の検討

#### (3) 事業改善の推進

- ・血液量確保の効率化の推進及び先進技術の活用による定型業務の省力化の促進

#### (4) 健全な財政の確立

- ・事業継続に必要な施設等の整備及び安定経営に向けた取り組みの維持・継続

# 3. 平成31年度の事業概要

## 献血者



事業所・学校、  
献血ルーム等での受入れ

- ・献血バス 274台
- ・献血ルーム 140カ所

台数等は  
平成31年4月1日時点

400mL献血

327万人

成分献血

150万人

200mL献血

10万人

**計487万人**

## 血液センター



血液の検査・  
製造・供給

- ・検査拠点 8カ所
- ・製造拠点 11カ所
- ・供給拠点 102カ所

拠点数は  
平成31年4月1日時点



赤血球製剤

636万本



血漿製剤

216万本



血小板製剤

881万本

**計1,733万本**

製剤本数は200mL献血由来を  
1本とした換算数



原料血漿

120万リットル

## 医療機関



血漿分画製剤

製薬メーカー

**JB** 一般社団法人  
日本血液製剤機構  
Japan Blood Products Organization

**日本製薬株式会社**  
NIHON PHARMACEUTICAL CO.,LTD.

**kmb** KMIバイオロジクス株式会社

487万人の献血者にご協力をいただき、

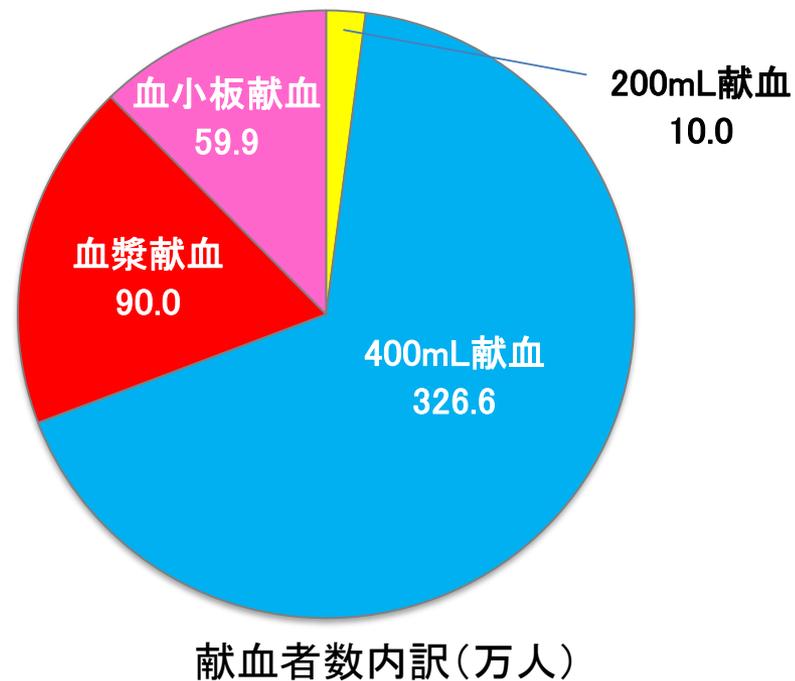
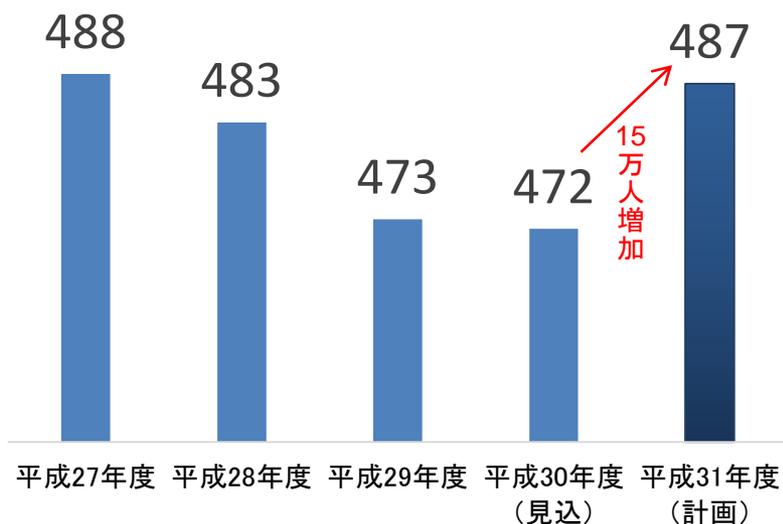
1,733万本の輸血用血液製剤を医療機関にお届けするとともに、  
120万リットルの原料血漿を製薬メーカーに送付します。

## 4. 各施策の取り組み

### (1) 献血者の安定的確保

- 医療機関の需要に見合った血液量を過不足なく確保する。
- 原料血漿の必要量の増加を踏まえ、400mL献血、成分献血を中心に、平成30年度(見込)と比較し15万人増の487万人を計画している。

献血者数の推移(万人)



## 献血推進・予約システムの活用



- 平成30年10月に導入した献血推進・予約システム「ラブラッド（愛称）」を活用し、WEBによる献血予約を働きかけ、待ち時間の解消に取り組むなど、献血者の利便性向上に努めることで、複数回献血の更なる推進を図る。

### 【旧システムからの主な改善点】

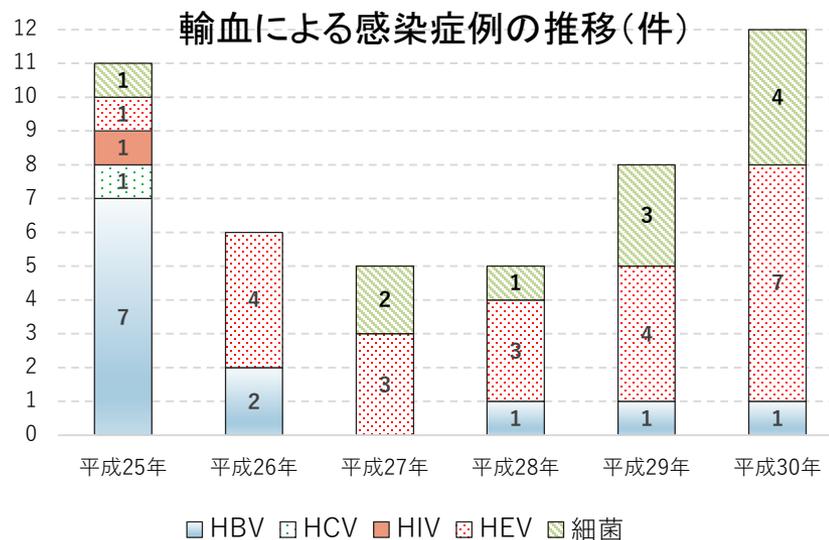
項目	旧システム	献血推進・予約システム
Web予約	一部の献血ルーム	全国すべての献血ルーム
Web予約可否の連絡	翌日～3日後	即時（自動）判定
情報伝達手段	Eメールのみ	Eメール、LINEの選択可
ポイントサービス	一部の血液センターのみ	全国共通

## (2) 血液製剤の安全性向上

- 安全性については、問診、核酸増幅検査(NAT)等により、輸血によるウイルス感染等の発生を限りなく低減している。
- 輸血患者は年間約95万人と推計されるが、B型肝炎ウイルス(HBV)、E型肝炎ウイルス(HEV)及び細菌の輸血による感染が年間数件発生している。

※HBVは検査で検出が可能な限界以下である期間における感染

- 平成31年度は、すべての献血血液に対するE型肝炎ウイルス(HEV)検査の実施に向けた準備のほか、細菌感染に対する更なる安全対策の検討を進める。



### (3) 事業改善の推進

- 各部門において、事業の更なる効率化に向けた取り組みを進める。

#### 採 血

- ✓ 必要血液量の効率的な確保
- ✓ 献血推進・予約システムの活用による献血予約の推進

#### 検 査 製 造

- ✓ 自動化機器導入による工程の省力化
- ✓ 血小板製剤の分割製造の促進

#### 供 給

- ✓ 医療機関の血液製剤発注システムの利用促進
- ✓ 定期配送便による納品割合の向上

#### 管 理

- ✓ 全国共通の定型業務（給与事務等）の一元化
- ✓ 先進技術の活用による定型業務の省力化の促進

事業の更なる効率化

## 必要血液量の効率的な確保

- 原料血漿の必要量の増加に対応するため、平成31年度においては、国が定める採血基準の範囲内で、成分献血における血漿採取量の増量対策を一層推進するなど、原料血漿の確保対策の充実強化を中心として、血液量確保の更なる効率化に向けた取り組みを進める。

### 原料血漿の確保に向けた主な対策

#### 【従来から継続して取り組む対策】

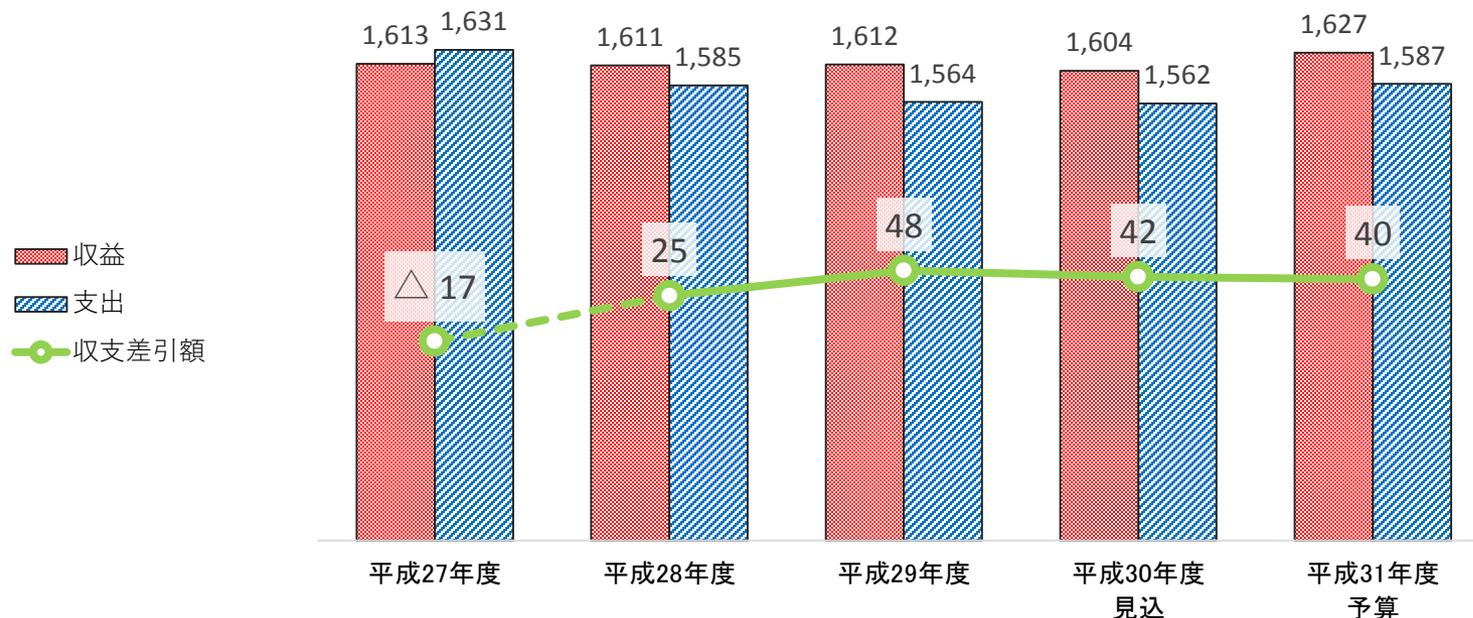
- 原料血漿用血漿成分献血における1人当りの血漿採取量の増加
- 自動遠心分離装置の導入による全血献血由来の血漿分離量の増加
- 血小板成分献血の上限血漿採取量の見直しによる血漿採取量の増加

#### 【平成31年度から新たに取り組む対策】

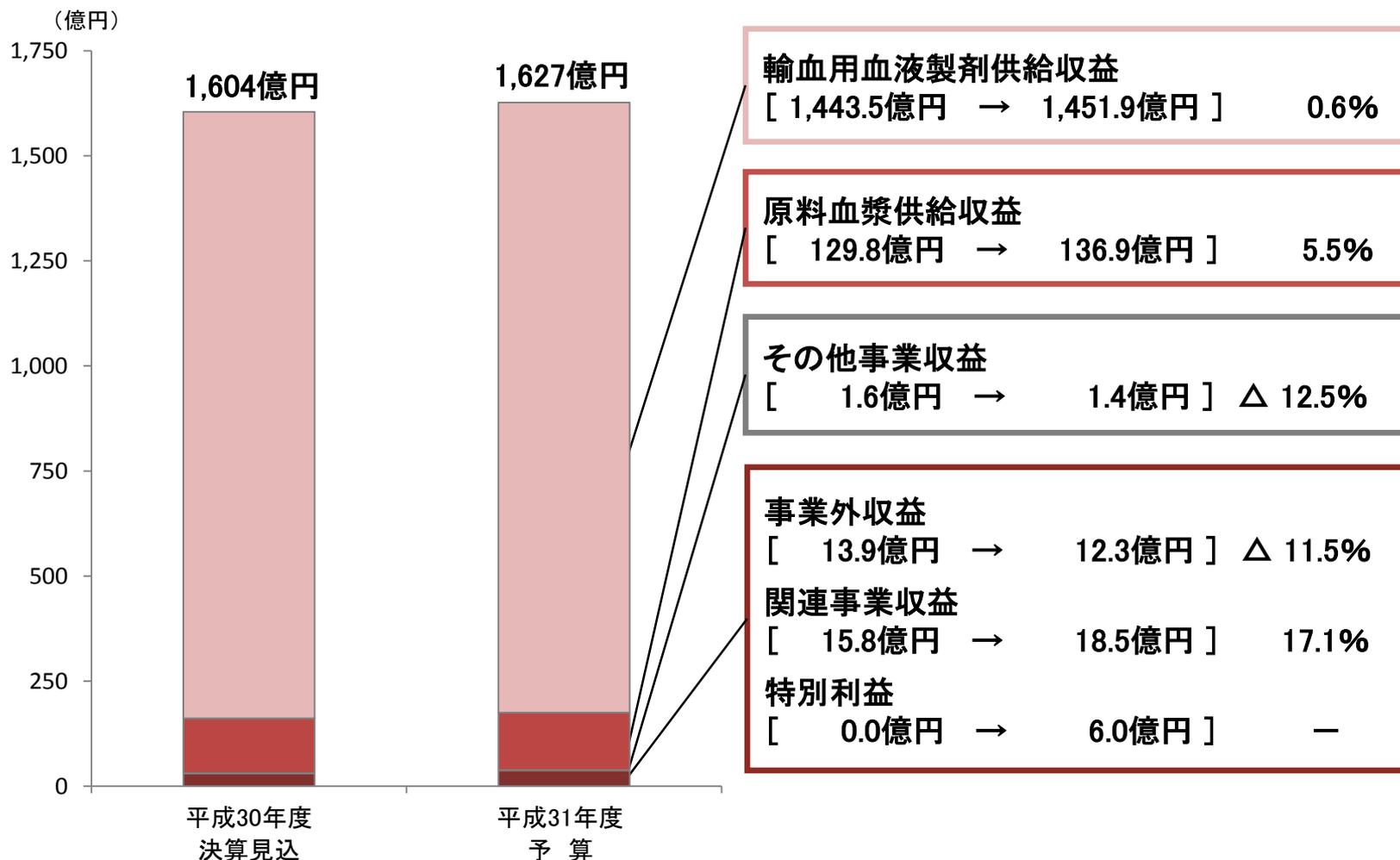
- 成分献血由来血漿製剤(FFP-LR480)の製造工程における血漿の分離確保
- 献血推進・予約システムを活用した循環血液量の多い献血者への献血依頼

## (4) 健全な財政の確立

- 平成27年度までは、収支が悪化傾向にあったが、経営改善の取り組みにより、平成28年度からは黒字に転じた。
- 平成31年度は、事業継続に必要な施設整備を適宜進めつつ、引き続き、安定経営に向けた取り組みを維持継続する。

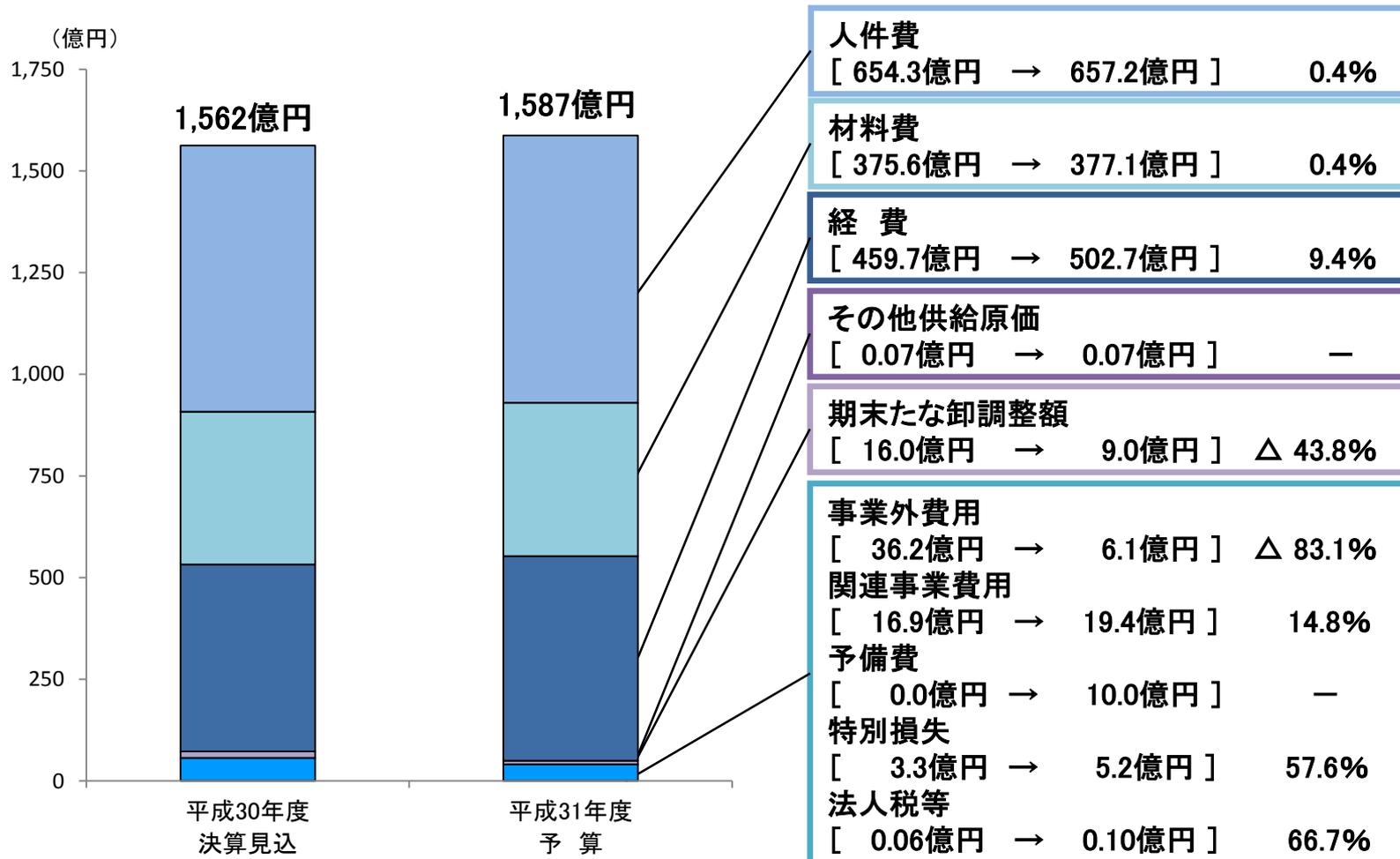


# 5. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



	平成30年度決算見込	平成31年度予算	増減額	増減率
<b>収益的収入合計</b>	<b>1,604億円</b>	<b>1,627億円</b>	<b>23億円</b>	<b>1.4%</b>

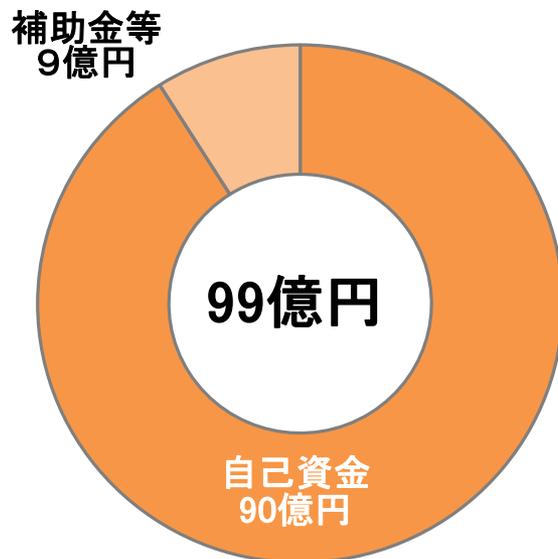
# 6. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



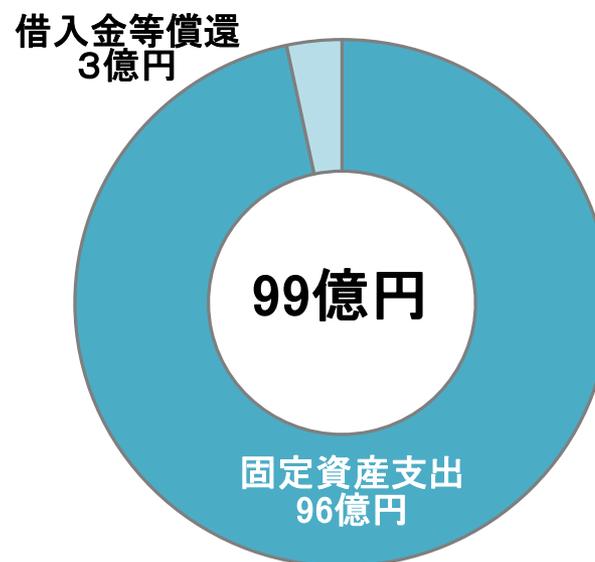
	平成30年度決算見込	平成31年度予算	増減額	増減率
収益的支出合計	1,562億円	1,587億円	25億円	1.6%
収支差引額	42.4億円	40.0億円	△2.4億円	

# 7. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし

## 【平成31年度収入】



## 【平成31年度支出】



### 固定資産支出

内 容	金 額
血液センターの施設整備・改修	23億円
感染症検査機器、成分採血装置、全血採血装置等の機器整備	34億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	16億円
血液事業情報システムの改修・更新、献血推進・予約システムの機能充実、血液製剤発注システムの機能充実、造血幹細胞移植支援システムの構築 等	23億円